



GOOD NEWS ときのかえ

War Cry

11月号

福音版
2022
November
No.2842

二〇二二年 十一月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

最も必要な

「つながり」とは

立石 真崇



聖書に次のようなイエス・キリストの言葉があります。

わたしにつながっていないなさい。わたしもあなたがたにつながっている。……わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。（ヨハネによる福音書15章4、5節）

イエス・キリストは、ご自分と「つながる」ようにと人々に呼びかけられました。そして、この聖書の言葉を通して、私たちもイエス・キリストとつながる生き方へと招かれています。

新型コロナウイルスの感染流行からおよそ三年になりますが、私たちはこれまで社会や暮らしの変化を経験し、人のつながりがとても大切であることに改めて気づかされました。それと共に、つながりをもつことや保つことが必ずしも容易ではないということも考えさせられています。

感染予防を理由にして、人と人とが直接に会い、一緒に過ごす機会が減りました。そして、お互いのつな

がりはマスク越し、仕切り越し、画面越しになることが増えました。また、インターネットやSNSなどの情報通信がつながるための新しい手段として活用されるようになりました。ただし、パソコンやスマートフォンを使って、暮らしに新しい格差が生じる可能性が指摘されつつあります。また、多くの情報を交わせることは便利ですが、かえって異なる意見や立場がぶつかり、対立を引き起こす要因になり得ることも明らかになりつつあります。

このような状況に置かれている私たちにとって、イエス・キリストとのつながりは特別な意味をもっています。それは、神の愛と私たちの命を結び合わせることでできる唯一のつながりだからです。イエス・キリストは次のようにも語っておられます。

父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。（ヨハネによる福音書15章9節）

イエス・キリストが示される「つながり」とは、私という存在が神に受け入れ

られるということです。また、「私は愛されている」という事実を人生の土台にすることができるといふことです。そして、神のもとに私たちの居場所が永遠に確保されているということなのです。

このように、イエス・キリストは私たちにも必要な「つながり」を与えてくださいます。そのために、イエス・キリストは十字架で死なれ、私たちを罪から救い出してくださいました。聖書が指摘する罪とは、法を犯すことや道徳に反することのさらに根本に横たわる、神とのつながりが断たれている状態を指します。しかし、イエス・キリストは私たちの人生に命のつながり、愛のつながりを回復してくださいました。そして今も、ご自分につながる人々のために実を結び、喜びに満たされる人生を約束しておられます（ヨハネによる福音書15章8、11節）。

どうぞ日曜日にはお近くの救世軍の小隊、またはキリスト教会の礼拝にお出かけください。イエス・キリストにつながる人生の出発点がそこにあります。

（救世軍士官（伝道者））

神様により頼んで —共に悩み、苦しみ、喜ぶ日々 チャプレンの働きから



救世軍士官（伝道者）

吉田 有 さん、吉田輝美 さん

プロフィール

それぞれ、アルコール依存症者回復支援施設の職員、保育士としてのキャリアを経て、2014年に救世軍士官となる。小隊、社会福祉施設で奉仕している。



はじめに

「チャプレン」という働きをご存じでしょうか。施設や学校、軍隊などの組織で働く聖職者を指す言葉です。救世軍の社会福祉施設や病院にはチャプレンがあり、日々、職員や利用者の皆さんと共に働いています。この働きについている吉田有さん、輝美さんの証言をお届けします。

私たち夫婦、吉田有と吉田輝美は共に救世軍の士官（伝道者）として、小隊（教会にあたる）の責任をもち、加えて児童養護施設二カ所、児童家庭支援センター、保育所の計四カ所の社会福祉施設にチャプレンとして関わっています。

児童家庭支援センターは、児童養護施設に併設された民間の相談機関です。子育てや、虐待の相談が年間一万件近くあります。児童家庭支援センターの業務は多岐にわたっていますが、簡単に言うと民間の児童相談

所のような施設です。その基本的な業務は、地域の子どもの親が、安心して子育てができるように支援することです。時に、親と子どもを引き離さなければならぬ場面もあります。しかし、それも含めて、親子が良好な関係を構築できるようにになることを目的としています。私は、その児童家庭支援センターのセンター長、また児童養護施設スタッフとして、妻は保育所のスタッフとしての役割も頂いています。

「それでも神様はあなたを愛しておられる」

愛しておられる」

チャプレンとしての関わり方はそれぞれの施設で異なりますが、基本的には毎朝施設に出勤し、スタッフや子どもたちと過ごします。妻は保育所に出勤し、実際の保育にも入ります。

私も児童養護施設、児童家庭支援センターに出勤し、子どもの支援、相談対応、カンファレンス参加等の業務に入ります。児童養護施設、児童家庭支援センターに限らず、チャプレンとし

て関わりのあるスタッフや、子どもたちが話をしに来ることもあります。児童養護施設には、二歳から十八歳まで、さまざまな理由により家庭で生活することができない子どもたちが入所しています。朝起きて、朝食を食べ、学校に行き、帰って来て宿題や遊びなどをしながら、それぞれが過ごします。施設での生活は、当たり前の日常を子どもとスタッフでつくる日々の営みです。施設を退所後は、大学等への進学や就職により、多くが一人暮らしとなります。

十八歳で施設を卒業した子どもたちは、児童福祉法の対象から外れますが、彼ら、彼女らへの支援を、ア

フターケアとしておこないます。施設を卒業した子どもたちは、多くの悩みや、生きづらさを経験します。そのような時、多くの子どもたちは、施設に連絡をくれます。その様子を見るたびに、入所時から現在に至るまで、一人ひとりを大切に、信頼関係を築いてくれたスタッフの日頃の働きの尊さを感じます。

チャプレンとして、入所している子どもや、卒業した子どもたちが家族と死別した際に、葬儀を手伝うことや、グリーフケア（死別の悲しみのケア）を担うこともあります。

ほとんどのスタッフは、クリスチャンではありません。しかし、私が士官であることは知っています。厳しい状況や、受け止めきれない場面では、個人的な話をしてくれる時があります。

すべての施設で共通していることは、毎月の職員会議の中で、短い礼拝の時間をもち、救世軍歌集や子ども賛美歌から賛美を献げ、聖書から語ることです。スタッフの中には、日々の慌ただしい時間の流れの中で、心を静めることができるひ



施設長方との連絡会

ときだと語ってくれる人
もいます。

聖書から語るとき、子どもたち、親たちの生きづらさ、スタッフが抱える日々の葛藤などをその場にいる皆で共有し、聖書の視点から「それでも神様はすべての人を愛している」というメッセージを伝えたいと願っています。

私たちを含め、子どもに関わる働きをする人々が共通して願うのは、子どもたちに「生まれてきて良かった」と感じてもらうことです。逆に言えば、そのようには到底、思えない境遇や状況を経験している子どもたちが存在します。

そういう厳しい現場に遭わされた者として、私たちは自分たちの役割を次のように考えています。時として、関わるスタッフも、子ども自身も感じることでできない「生まれてきて良かった」を信じ、まず私自

そこに共にいる人

チャプレンの強みは、関わる子どもたち、親、関係機関、スタッフと、共に悩み、苦しみ、そして喜べることです。そしてそれは、

身がわかることができるよう祈ること。それは、私たちが「生まれてきて良かった」と感じられる根拠は、神様にあるからです。私自身が信じられなくても、他の誰も理解できなくても、当事者自身でさえ信じられなくても、神様はその独り子イエス・キリストをお与えになったほどに、目の前にいる、その人を愛しておられると聖書は語っています。

私自身も「生まれてきて良かった」と胸を張って言える自信はありません。自分自身を価値のないものと悲観する時もあります。しかし、そのような自分をも生かし、用いようとしてくださるイエス・キリストを通して示された神様の愛に立ち返りつつ、「それでも神様はあなたを愛しておられる」と、言葉ではなく、存在を通して伝え続けたいと願っています。

いてみました。彼女は「いてくれるだけで安心する人」と言ってくれました。チャプレンは、何かをする人ではなく、そこに共にいる人なのだと改めて知らされました。

共にいることを通して、結果的に一緒にいる人から影響を受け、教えられることが多くあります。共に働くスタッフたちは、文字どおり命懸けで子どもたちを守り、その成長を支えています。クリスチャンとして、この現場に遭わされた自分自身を省みると、目の前のスタッフのように、子どもたちや保護者に仕えることができるだろうかと考えます。

況の中でもなお、出勤し続け、施設を守ってくださいています。

日々、感染の恐怖にさらされながら、それでも子どもたち、スタッフを守るために奮闘する現場の責任者。施設の子どもたちを守るため、大切な家族と離れ離れになり、感染した子どもの生活を支える中で、結果的に自分自身も感染してしまったスタッフ。自分自身も持病を抱えながら、職員と子どもを守るため、率先して子どもの生活を支える施設長。個人的な事情でワークチン未接種という状況の中、恐怖を抱え、それでも感染した子どもたちの生活を見守るスタッフ。コロナ禍であってもなくても、子どもたちや、保護者に向き

合うそれぞれの姿の中に、きれいな事ではない、人に仕える姿を見ます。

クリスチャンとは、キリストを信じ、そのお姿に倣う者という意味です。イエス・キリストは神でありながら、ご自分を無にして、私たちを救うため十字架に命を献^{ささ}げてくださった方です。私は、子どもたちのため、他者のために仕えるスタッフお一人おひとりの中に、イエス・キリストを見ます。そして、度々、私自身はどうだろうかと考えさせられます。

をもった人間です。そんな自分たちに、子どもたち、保護者、スタッフと出会わせてくださり、人に仕えることを教えてくださった神様の愛を感じます。私たちができることは、自分たちが悩み、迷いながら、それでも神様により頼み、その愛に気がつき、そして遣わされた場所での周りの人々と共にいることです。その時に、ありのままのその姿が、神様の愛を示すのだと信じて、歩ませていただきます。



小隊(教会)の信徒のお子さんと



保育所の礼拝風景



保育所の新園舎落成の折に職員の皆さんと



世界をみつめて

〈英国〉エリザベス女王葬への参列

9月19日、救世軍のブライアン・ペドル大將は英国のエリザベス二世女王の国葬に参列しました。

エリザベス女王は長年、救世軍の働きに深い理解を示してくださり、1965年、英国での救世軍100周年記念集会への出席や、数々の施設の開所式にご臨席くださいました。2020年12月、コロナ禍の中で人々の生活を支えている人々に対し、英王室から感謝を表す行事がウィンザー城で開かれた折には、救世軍の代表者も招かれ、救世軍の支援活動への感謝をいただきました。その際、救世軍のブラスバンドがカール



2020年12月、ウィンザー城で

を演奏しました。

女王陛下の死や葬儀を通し、彼女の信仰に改めて光が当てられています。「長い短いかを問わず、私の全生涯を国民への奉仕に献げます」という若き日の誓いを、神の助けと力によって真実に果たし続けた生涯は、クリスチャンとしての力強い証となりました。

〈パキスタン〉水害被災地への支援

パキスタンでは、今年6月から続く豪雨が引き起こした洪水で、3,300万人以上が被災、死者が1,300人を超えるなど深刻な被害が出ています。パキスタン史上最悪と言われるこの災害を受け、救世軍は他の関係機関と緊密に連携しながら、被災した人々への支援に取り組んでいます。

南西部のバルチスタン州では、被災した500世帯を対象に、食料品や衛生用品を配布しています。ピシンとウメダバードの2地域は洪水の影響が大きく、救世軍が連絡をとり救援に入るまでは、多くの人が何の支援も受けられない状態で危険にさらされていました。北西部のカイバル・パクトウンクワ州では、多くの人命が失われました。ここ

では約600世帯への支援をおこなっています。また南東部のシンド州では、カラチのスラム街やダドゥ地区を中心に、550世帯を目標に食料や衛生用品の提供を含む支援がおこなわれています。

豪雨によって多数の道路や橋が破壊されており、物資を届けることに困難がありますが、救世軍の緊急対応チームとボランティアは、現地でさらなるニーズを調査しながら活動を進めています。(9月9日時点)



救世軍とは? What is The Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置き、世界133の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神の愛を伝えてきました。日本では、1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が派遣されて活動が始まりました。

現在、日本の救世軍には19の社会福祉施設があります。高齢者介護、婦人保護、児童養護、保育、アルコール依存症者回復支援の働き現場では、利用者お一人おひとりの身体、心、魂が健やかに保たれることを願い、支援をおこなっています。救世軍社会福祉事業及び医療事業は、「キリスト教の精神と、救世軍の主義に従い、すべての人の全人的存在の価値を尊び、キリストが一人ひとりを愛されたことを模範とし、キリストに仕えるように、個人個人に仕えることをその事業の基盤とする」との理念のもと、働きを進めています。

第21代救世軍大將

ブライアン・ペドル大將

ロザリー・ペドル中將

来日集会予定

〈スケジュール〉

※詳細は救世軍公式ホームページでお知らせいたします



11月18日(金) 17時

西日本連隊連合集会

会場) スイスホテル南海大阪(大阪・難波)

11月19日(土) 17時30分

ゴスペル・オータム・コンサート

〔入場無料・事前登録制〕

ゲスト) 堀井ローレン

会場) 日本教育会館一ツ橋ホール(東京・神保町)

11月20日(日) 10時

連合聖別会

会場) 共立講堂(東京・神保町)

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日(除く7月)

定 価 福音版/1部40円、広報版/1部100円

(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円

振 替 00180-5-4400

発行兼 救世軍

印刷人 代表者 スティーブン・モーリス

編集人 山谷 真

発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17

電話 03-3237-0881(代表)

Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org

印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

- ・私の近くの救世軍を紹介してください。
- ・キリスト教についてもっと知りたいです。
- ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。
- ・相談を希望します。